# 第七講　歴史論

さて十九世紀の進行のうちに、自然科学がものすごい勢いで発達し、社会のあらゆるものをこれが動かすこととなるにつれて、科学精神は歴史をもとらえずにはおかなかったのであります。そして歴史は歴史科学と呼ばれることになります。近代科学の開祖であるデカルトは、歴史をあまり重視しなかった。それは近代科学を歴史的制約の外に純粋に発展させるために必要な態度であったのですが、ここでは人間の知識ないし思想は二つにはっきり分かたれ、一方に厳密な自然科学があり、他方に文学があって歴史は後者の中に入れられていたのであります。［A］、その後歴史は歴史科学の名の下に文学の世界から科学の世界に移るのであります。そこでは歴史はもはや過去の再現ではなく、一定の法則による過去の理論的構成であろうとし、また、自然科学がだんだん細かい分野に分かれると同じように、歴史も何々史、さらに何々における何々の研究というふうに細分化される。その各々（おのおの）は全体をとらええぬかもしれぬが、それぞれの研究の成果は客観的な真理であるから、あたかも自然科学における一々の発見のように、後から来るものはそれを踏み台として先に進むことができる。［B］蓄積された厳密な史料によって全歴史がいつか構成されて成立するというふうに楽観的に考えられたのだと思います。そしてそうした科学的歴史は個人というものの価値を社会の中に埋没させる傾向を生じました。自然科学では蟻（あり）とか狼（おおかみ）とかの発生・進化を環境に即して研究するが、蟻や狼の心理や個性（もしそういうものがあるとしたらの話ですが）を黙殺する。そうした科学をモデルとする以上、歴史における個人の軽視ということは当然であったといえます。

ところで歴史家が自然科学者のように自我を殺して、自分が歴史的世界に生きる人間であることを忘れ去って、歴史を研究し記述することが果してできるか、どうか。細部については、それは可能でありましょう。例えば、関ヶ原の戦いに家康がどこから引き返して、どこで何日滞在し、何日かかって戦場に着いたか、というようなことは古文書その他によって、厳密に決定することができ、また万一不正確な点があれば訂正もできます。しかし、実はそういう仕事は考証家の仕事で、歴史ではない。そういうデータが無限に集まれば自（おの）ずと歴史が出来上るのではないのです。歴史家はそれらを集めて歴史を書くのですが、関ヶ原の役の意義を考えるにはその種の世界観がなくてはできず、つまり史料の統一には史観というのがなければ成立しません。そうす



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

れば必ずそこに歴史家の主観が出てくるので、［ C ］まったく純粋な精神というようなものの持主があったとしたら、歴史など書かない、また書けもしないだろうと思われます。［ D ］歴史事実の選択ないしとらえ方にも、その歴史家の史観は働くのであります。［ E ］愛国心に作用されたり、伝統文化を偏愛したりして、その史観が何ほどか曇るといったことも起こりえましょう。しかし、こういうことは避けがたいことで、もしこれを恐れていたならばデータの採集ないし小さな特殊研究以外に出られないことになります。（中略）学問とは冷静な、計量された冒険なのであります。

　こうした素朴な客観主義の歴史観を、根底から揺り動かしたのは、最近の物理学、歴史がモデルとした自然科学そのものの基本をなす物理学の進歩であって、その物理学が素朴な客観主義ないし決定論を棄（す）てねばならなくなったことであります。対象は研究者がたんに自我を殺して無私的に見れば見えるようなものではなくて、研究者がそこに操作を加えることによってはじめてとらえられるものである、とされるのであって、「研究者は彼が研究するところのプロセスの中に押し入る（イントルード）」、そしてこのことは自然科学研究についても歴史研究についても共に正しい、とエドガー・ヴィントはいっています。だからディルタイのいうように、歴史家は自己を脱却し、あらゆる時代に合一するようなことは不可能で、もしそんなふうに現在から脱却しうる純粋な精神というようなものがあったら、その精神は歴史をとらえようとはしないでありましょう。この点、ヴァレリーの言葉は意味深く読まれます。「歴史の真の性格は歴史自体に参与するということである。過去の観念が一つの意味を持ち、また一つの価値を形成するのは、自分のうちにF<u>未来への情熱</u>を見出（い）だす人間にとってのみである。」

（桑原武夫「歴史と文学」による）

問１　空欄Ａ～Ｅに入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選びなさい。ただし同じものを繰り返し用いてはならない。

①　もしも　②　かくして　③　そもそも　④　ところが　⑤　もちろん



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問２　次の文を本文中の第一段落に入れるとすれば、どこが適当か。もっとも適当と思う箇所を、その前の文の終りの八字で示しなさい。（句読点は一字に数えない）

すなわち歴史は芸術ないし文学を排除して、自然科学をモデルとして一個の科学たらんとする。

問３　傍線Ｆは本文の趣旨からして何を意味しているか。もっとも適当と思うものを左の中から選びなさい。

①　歴史が自然科学と癒着して個人を軽視したことを反省し、未来にあっては個人の情熱を物事の基本に据えること。
②　客観主義にこだわった歴史に規制されず、歴史を自己の主体性をもって未来に結びつける自由を持つこと。
③　歴史の細部をあまねく蒐集（しゅうしゅう）し、それらの蓄積こそが未来の地平をひらくものだと考えること。
④　歴史の流れの中で個人は一アトムに過ぎぬという考え方を排し、未来のために潔く過去のすべてを廃棄すること。

問４　本文中の次の語句の中、本文の趣旨からして歴史叙述上望ましいと考えられているものが一つだけある。符号で答えなさい。

①　純粋な精神　②　素朴な客観主義　③　データの採集　④　歴史科学　⑤　歴史家の主観



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 第七講　知識モノ解説

## 文学史・人物解説

●桑原武夫＝くわばら　たけお（一九〇四〜一九八八）→フランス文学者
●エドガー・ヴィント（一九〇〇〜一九七一）→ドイツの美学美術史の研究者
●ヴィルヘルム＝ディルタイ（一八三三〜一九一一）→ドイツの哲学者
●ポール＝ヴァレリー（一八七一〜一九四五）→フランスの詩人、小説家

## 語句

素朴客観主義・素朴実証主義・決定論→人間から隔絶したところから得られる「データ、証拠、事実」で科学ができあがる、との立場
癒着＝ゆちゃく→本来、離れているべきものが利害のために結びつくこと
世界観・史観→世界や歴史を見るときの見方、考え方、観点のこと。　cf倫理観　価値観　人生観
※個人の思いや感じなどを表す場合は「感」。　cf劣等感　危機感　疎外感
偏愛＝へんあい→かたよってある対象だけ特別に愛すること
cfフェティシズム→物心崇拝・呪物崇拝・異性の装身具や身体的な部分に執着的愛をそそぐこと
アトム→ギリシャ語で「それ以上分割できないもの」・孤立した存在・原子



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 復習問題　第七講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）歴史的セイヤクの下にある　①性　②世　③制　④征　⑤政

（イ）ゲンミツな自然科学の展開　①原　②現　③元　④厳　⑤眩

（ウ）理論のコウセイを練る　①硬　②構　③公　④功　⑤講

（エ）証拠をチクセキしていく　①逐　②築　③畜　④蓄　⑤筑

（オ）社会の中にマイボツする　①舞　②毎　③枚　④味　⑤埋

（カ）世界カンを語り合う　①感　②観　③間　④巻　⑤館

（キ）伝統文化をヘンアイする　①変　②編　③片　④偏　⑤遍

（ク）学問はケイリョウされた冒険　①料　②量　③両　④了　⑤糧

（ケ）自我を殺しムシ的に見る　①志　②私　③史　④視　⑤試

（コ）未来へサンヨする　①世　②余　③代　④与　⑤予



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 第七講　歴史論

## 《本文の対比構造》

**主役**

**筆者の見解＝歴史家の主観重視・文学グループの歴史**＝歴史をとらえる史観や世界観・歴史自体に参与・未来への情熱／最近の物理学／エドガー・ヴィント／ディルタイ／ヴァレリー

**主な対比**

**敵役**

**十九世紀の素朴客観主義・自然科学グループの歴史**＝歴史科学・細分化・個人の軽視・純粋な精神・データ重視・決定論



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

**《解説》**

**問１**《接続語空欄補充・選択肢》

Aは、対比つまり逆接を導きます。空欄前では、歴史は文学グループ、それが空欄後「その後」自然科学グループに移行するわけですからね。したがって④「ところが」と入ります。Bは、前後をスムースにつなぐ順接です。空欄前も後も「客観的」「自然科学」「蓄積された厳密な史料」という科学的歴史の話ですから。したがって、②「かくして」が入ります。Cは、空欄直後の「〜あったとしたら」という仮定を導くものです。ゆえに①「もしも」が入ります。Dは、前提となる語句を導く表現です。つまり歴史事実の選択に先立って史観が働くのだよ、ということです。この「先立って」にあたる表現として③「そもそも」を選びます。Eは、譲歩です。敵役＝客観主義側の主張をふっておく、一度言わせるというスタイルです。その後「しかし」で乗り越えているのが根拠です。したがって⑤「もちろん」が入ります。同種の譲歩を導くものには「たしかに」「なるほど」「むろん」などがあります。

**問２**《脱文挿入》

こうした、ある文を本文中の適切な箇所に戻すという形式の問題では、「言い換え」になる、というのが基本です。今回も「すなわち」とありますから、同じ意味内容の表現箇所（つまり文学グループから科学グループへの鞍替え）をさがします。

**問３**《傍線部説明・選択肢》

「未来への情熱」は主役キーワードです。つまり、現在の人間（歴史家）が、過去の歴史を描くのは、未来への熱い関心があるからということです。つまり生きた人間の参与がそこにはあるわけです。関心や情熱の矛先を矢印でしめせば、**【過去**（歴史）**←現在**（歴史家）**→未来】**という図式になり、これら過去・現在・未来はつながっているということになります。したがって②が正解。①はまず「癒着」がヘンです。悪代官と悪徳商人かよ！　また今までのこと（過去）は「反省し」、それとは切れて「未来にあっては」と、表現しています。これでは「過去と未来」が対比であるかのようです。これは正しい対比喪失の誤りです。③は「細部をあまねく（広くなにもかも）蒐集」が対比混乱の誤りです。敵役キーワードを答えてしまいました。④


© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

は「アトム（なにもない空間にぽつんと個人が原子のように浮かぶイメージ）」を「排し」としていますが、排するもなにもそんな語句については対比にありません。正しい対比喪失の誤りです。さらに、「過去のすべてを廃棄」とは、あきれかえってでんぐりがえりますよ。まるっきり記述に反します。

**問４**《主題理解・選択肢》

⑤だけが主役キーワードです。その他はことごとく敵役側つまり、十九世紀の自然科学グループの言葉です。とくに①の「純粋な精神」には気をつけてください。「純粋」なんて語を見ると筆者側の、望ましい方ではないかと思ってしまうかもしれませんが、文脈上は、人間の主観、価値づけを排した客観データを「純粋」と呼んでいるわけです。言い換えれば、カタヨリもないかわりに、味もそっけもない、数値的記号的なものを指しているのですよ。

**模範解答**

問１　A＝④　B＝②　C＝①　D＝③　E＝⑤　問２　移るのであります　問３＝②　問４＝⑤

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

# 復習問題解答　第七講

（ア）③
（イ）④
（ウ）②
（エ）④
（オ）⑤
（カ）②
（キ）④
（ク）②
（ケ）②
（コ）④

**解答漢字一覧**

（ア）制約
（イ）厳密
（ウ）構成
（エ）蓄積
（オ）埋没
（カ）世界観
（キ）偏愛
（ク）計量
（ケ）無私
（コ）参与

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。